

現時点での基準（案）です。

今後、日本ミニ連盟から正式な基準が示された場合にはあらためて通知します。

ゾーンディフェンス禁止に伴う、マンツーマンディフェンスの基準(案)

ゾーンディフェンスの判定は「大会主催者が任命したコート責任者」(以後“責任者”)がする事。

1.) マッチアップ

全てのディフェンダーは、マンツーマンで、オフェンダーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップルールは7mエリア(バスケットからの半円がある事を想定)内では常に適用される。ディフェンダーのアイコンタクト、言葉のサイン又は手のサイン(指さしする事)により、明確に誰とマッチアップしているかが、責任者に分る事。

2.) プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時(フルコート、3/4コート及びハーフコート)でもマッチアップルールの基準に合致する事。

注意点：様々なゾーンディフェンス又はコンビネーションディフェンスは、7mエリア以外でも不正である！

プレスディフェンス採用時のルールは以下の通りである(フルコート、3/4コート及びハーフコート)：

・ボールを持っている選手をトラップする事は許されるが、ローテーション後のピックアップを確実に行い、責任者にマッチアップが明確に分かるようを行う事。

3.) オンボールディフェンス

ディフェンダーのポジションは、ボールとバスケットの間に位置し、距離は最大1.5メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離である事。

オフェンダーがボールをレシーブした時、ディフェンダーがボールマンに付く意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジをする事。

4.) オフボールディフェンス

ディフェンダーは常にオフェンダーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンダーは、自分のマークマン(オフェンダー)及びボールも見えるポジションを取る事(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブル又はパスで動いた場合、全てのディフェンダーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフェンダーが見えるポジションに一緒に動く)。

ボールを保持していないオフェンダーがポジションを変えた場合、ディフェンダーもオフェンダーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは、禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンダーは、ヘルプ又はトラップに行く場合を除いて、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、バスケットとバスケットを結ぶ線が、ボールサイドとヘルプサイドの“ボーダーライン”である。

全てのポジションで、非ボール保持者をトラップする事は不正である。

5.) ヘルプローテーション

ボールを持っていない選手のディフェンダーは、バスケットを守る為に、オンボールディフェンダーをヘルプできる。

オンボールディフェンダーがペネトレーションを止められず、抜かれた場合、バスケットへ向かうドリブルペネトレーションに対しては、ヘルプディフェンスが許される。オフボールのオフェンダーが、バスケットへカットする事をヘルプする事も許される。

ヘルプディフェンスの移動、バスケットを守る為に、短時間、他のディフェンダーとポジションチェンジ(ヘルプローテーション)が許される。

しかしながら、全てのヘルプディフェンダーは、ヘルプ終了後直ちにオフェンダーとマッチアップ(前記した方法で明確に)しなければならない。

6.) スイッチング

スイッチはスクリーン、トラップ後、ヘルプ後と“ラン&ジャンプ”的な状況で許されるが、オフボールオフェンダーのポジションチェンジには、スイッチは不正である。

ディフェンダーがスイッチした場合、プレー中に、ディフェンダーが直ちに新しいオフェンダーとマッチアップ(前記した方法で)した事が、責任者に認識できるように明確にする事。

7.) トラッピング

ボールを保持している選手をトラップする事は、その後のディフェンダーのマッチアップが明確であればローテーションが許される。

ルール違反の罰則 (優勝大会では実施しない)

ゲーム中はマンツーマンディフェンスコミッショナー(責任者)がマンツーマンディフェンスをコントロールします。責任者がルール違反を察知した時は、レフリーに指示し、レフリーが指揮を執るコーチに警告を与えます。これは違反が起きた後の最初に時間が止まった時に実施します。その後のルール違反は、違反を犯した指揮を執るコーチのテクニカルファールが宣告されます。